2022 年度 インスティテューショナルリサーチセンター管理運営委員会

身につけるべき学士力調査

目的

学士力の基礎資料を得る。

対象

2022 年 3 月卒業生を対象とした。回答者は、心理専攻（以下、心理）84 名、こども保育・教育専攻（以下、保育教育）118 名、モチベーション行動科学部（以下、モチベ）56 名である。

結果と考察

汎用スキルについて、本学の卒業生は「②意見や立場の違いを理解し、受け入れることができる。」「⑫相手の意見を丁寧に聞くことができる。」「⑭他者と協調して行動できる。」「⑰自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる。」といった他者の立場の違いを認めコミュニケーションをすることや他者と協調して活動すること、社会のルールや規範に従い行動することについて、90%近くが身につけることができたと評価している。また、「⑮他者に目標や方向性を示し、その実現のために行動できる。」「⑳状況や変化に沈着な対応を行い、適正な行動ができる。」では 70%近くが身につけることが出来たと評価している。

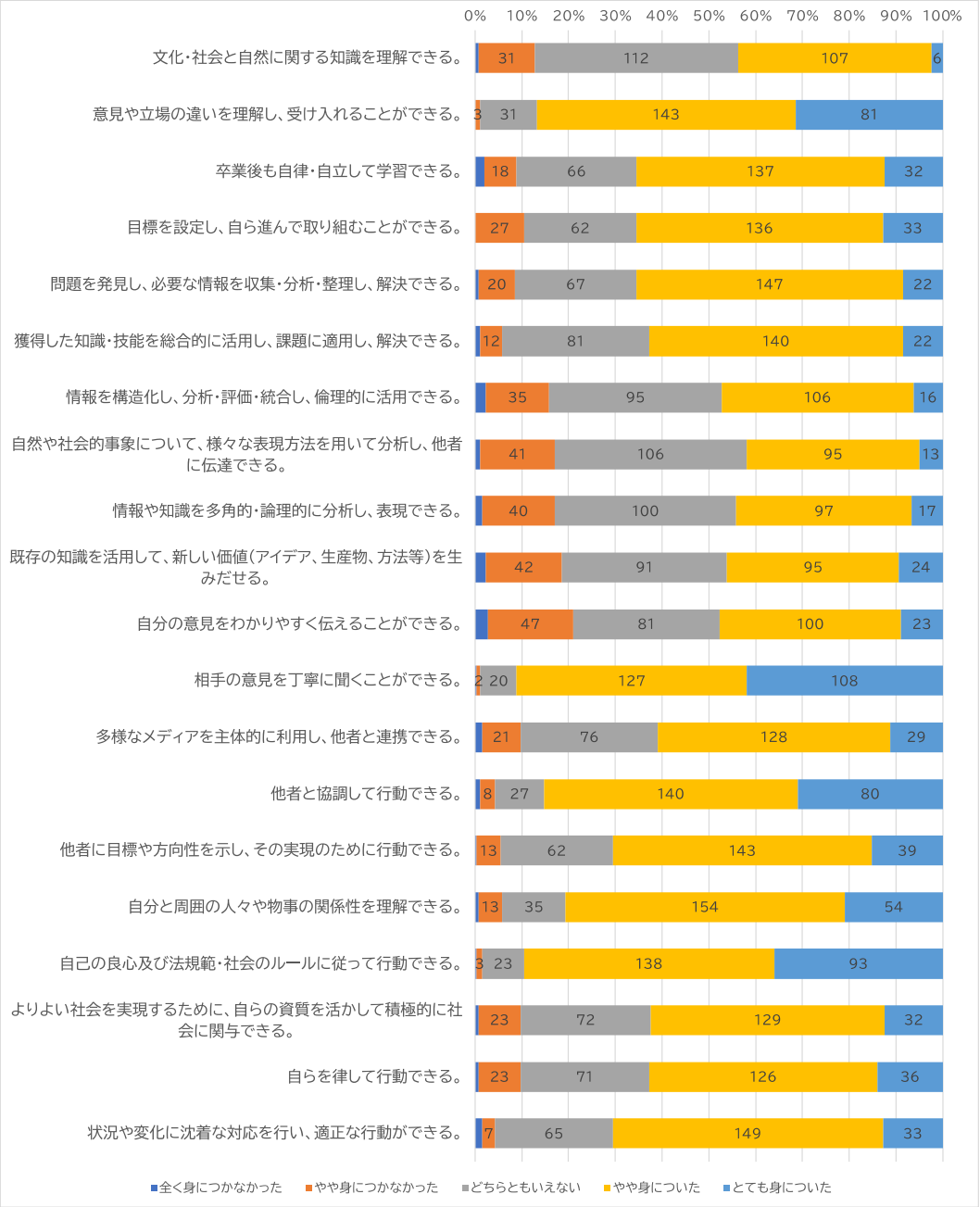
一方で、「⑪自分の意見をわかりやすく伝えることができる」については 20%程度、「⑩既存の知識を活用して、新しい価値(アイデア、生産物、方法等)を生みだせる。」「⑦情報を構造化し、分析・評価・統合し、倫理的に活用できる。」「⑧自然や社会的事象について、様々な表現方法を用いて分析し、他者に伝達できる。」「⑨情報や知識を多角的・論理的に分析し、表現できる。」については 15～18%程度の卒業生が身につけることができなかったと評価していた。

これらの結果から、本学の卒業生の多くは、周囲の対人関係に気を配り、諦めずコミュニケーションする力を獲得し、他者と共に状況に応じて行動することが出来ているが、問題を多角的に分析したり、既存知識を活かして新たな価値を見いだすことや、適切な表現や主張を行うことなどには不十分さを感じていることが明らかになった。

表１　汎用スキル（全体）の平均と標準偏差

	項目	平均	SD
1	文化・社会と自然に関する知識を理解できる。	3.35	2.23
2	意見や立場の違いを理解し、受け入れることができる。	4.16	2.02
3	卒業後も自律・自立して学習できる。	3.65	2.56
4	目標を設定し、自ら進んで取り組むことができる。	3.67	2.55
5	問題を発見し、必要な情報を収集・分析・整理し、解決できる。	3.64	2.38
6	獲得した知識・技能を総合的に活用し、課題に適用し、解決できる。	3.62	2.28
7	情報を構造化し、分析・評価・統合し、倫理的に活用できる。	3.37	2.68
8	自然や社会的事象について、様々な表現方法を用いて分析し、他者に伝達できる。	3.27	2.57
9	情報や知識を多角的・論理的に分析し、表現できる。	3.33	2.65
10	既存の知識を活用して、新しい価値(アイデア、生産物、方法等)を生みだせる。	3.32	2.88
11	自分の意見をわかりやすく伝えることができる。	3.31	2.92
12	相手の意見を丁寧に聞くことができる。	4.30	2.09
13	多様なメディアを主体的に利用し、他者と連携できる。	3.59	2.59
14	他者と協調して行動できる。	4.08	2.41
15	他者に目標や方向性を示し、その実現のために行動できる。	3.77	2.35
16	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解できる。	3.94	2.39
17	自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる。	4.23	2.04
18	よりよい社会を実現するために、自らの資質を活かして積極的に社会に関与できる。	3.62	2.60
19	自らを律して行動できる。	3.66	2.65
20	状況や変化に沈着な対応を行い、適正な行動ができる。	3.78	2.31

図１　汎用スキルについての評価分布

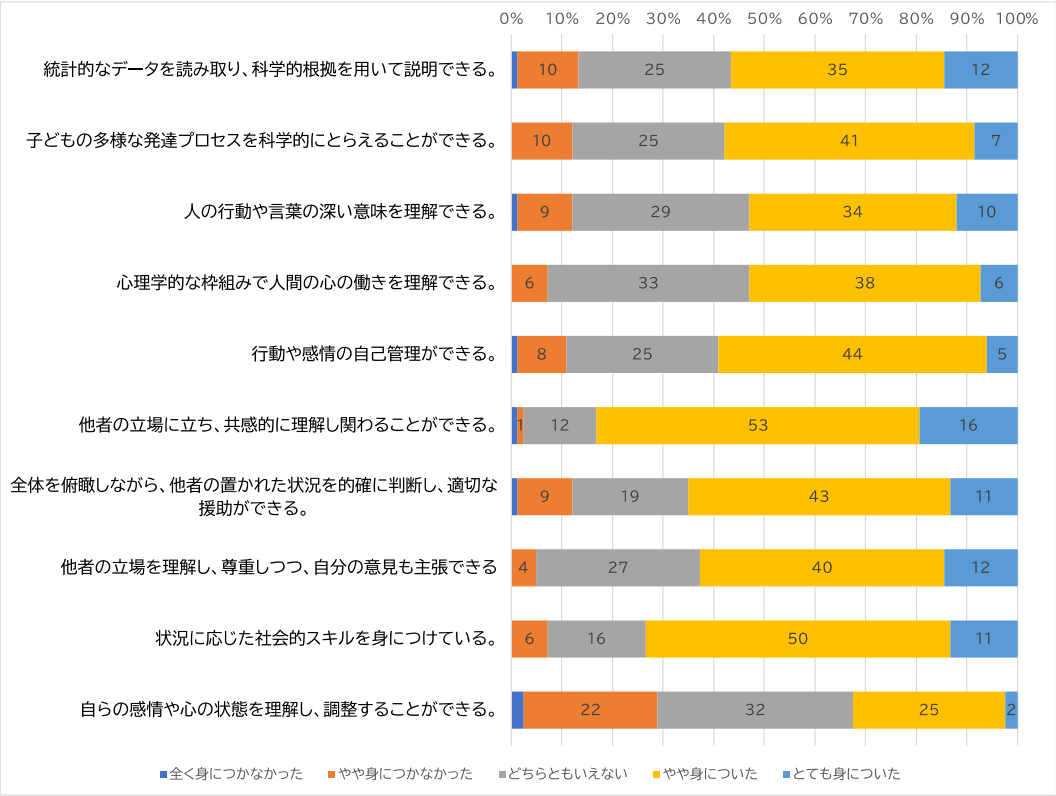


専門スキル（心理専攻）

心理専攻における専門スキルの獲得では、⑨社会的スキルの獲得や⑥共感的理解については７割以上が身に付いたと評価している。一方で⑩感情調整については、３割程度にとどまっている。

これらのことから、卒業生は社会における振舞いやコミュニケーションについて獲得できているが、心理的なセルフコントロールや心理的な機序の理解については不十分であると捉えているといえるだろう。

図２　専門スキル（心理専攻）についての評価分布

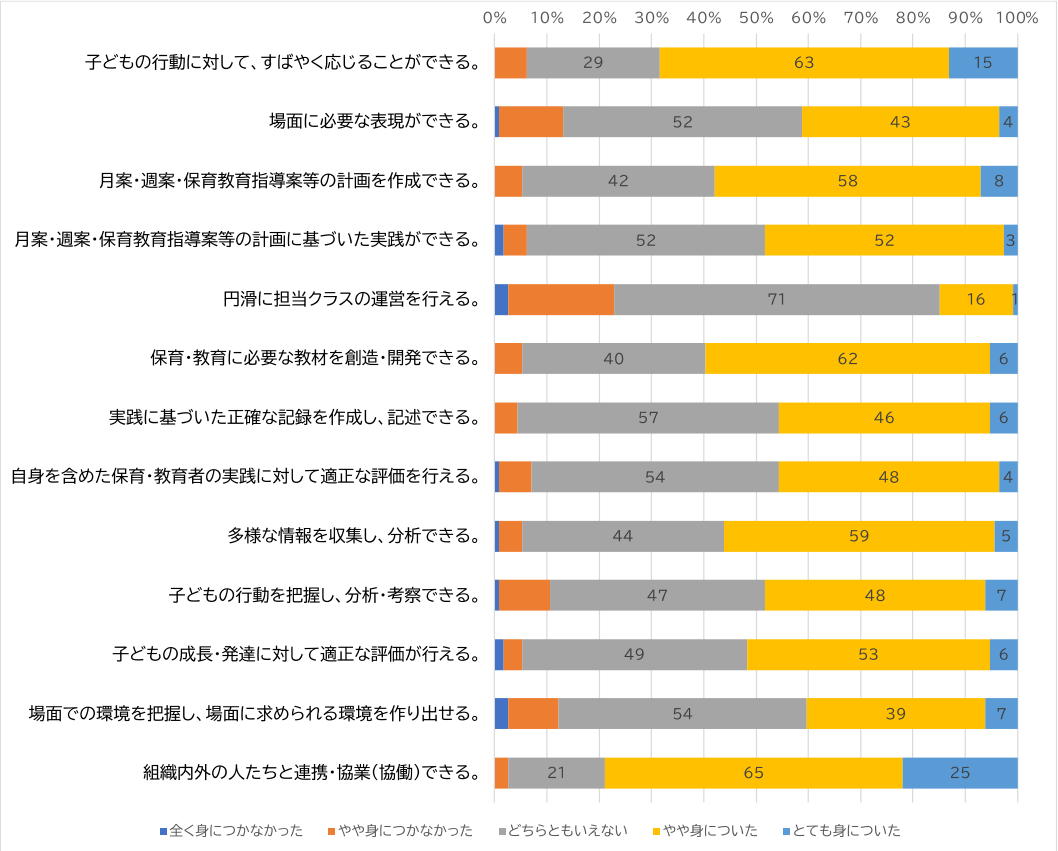


専門スキル（こども保育・教育専攻）

こども保育・教育専攻における専門スキルの獲得では、⑬組織内外の協働や①こどもの行動への応答について、７割近くが獲得できていると評価している。一方で、⑤円滑なクラス運営については 15%以下に留まっていた。

このような結果から、実習などを通して保育者間の協働や個別のこどもへの対応などについて獲得に自信を持つことができたものの、クラスなど集団での活動がコロナ禍における実習が制限下で行われたことから、クラス運営についての課題がうかがわれた。

図３　専門スキル（こども保育・教育専攻）についての評価分布



専門スキル（モチベーション行動科学部）

モチベーション行動科学部における専門スキルの獲得では、②成長発達の理解や③客観的な人間行動の理解、⑤他者に対する肯定的理解については、8 割以上の卒業生が獲得できていると評価している。一方で、⑩社会情勢の理解や⑪経営についての戦略的思考、⑫地域の人々との連携については、やや獲得ができていないと評価する学生が多かった。

これらのことから、他者との肯定的コミュニケーションやその理解、客観的な視点などを獲得することができているといえるが、地域社会との連携などコロナ禍の制限によって制約を受けた内容が低く評価されていた。

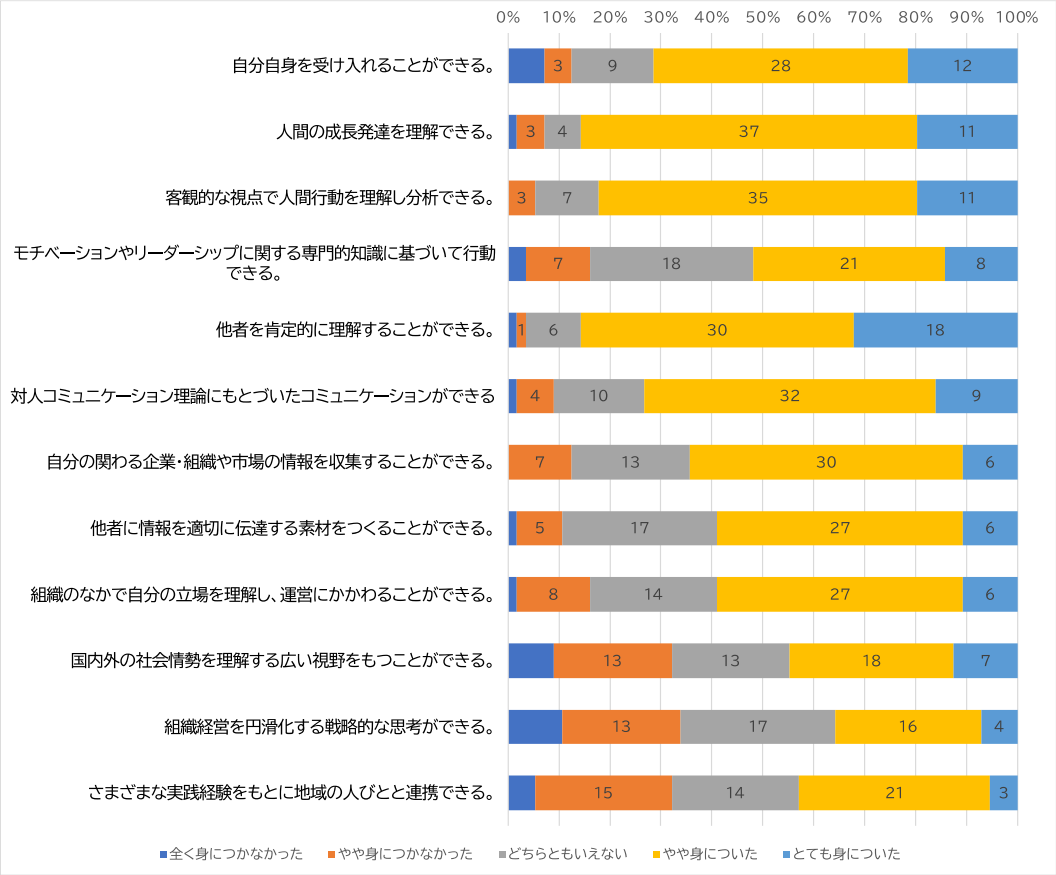



図 4　専門スキル（モチベーション行動科学部）についての評価分布